

《国語の基礎確認シート14》 総合問題

※ 解答は、解答用紙に書きましょう。

一 次は、三田さんが書いたスピーチ原稿です。() ア、イに入る言葉としてふさわしいものを、それぞれ四字以内で書きましょう。

わたしは、前の晩に苦勞して覚えたことを、次の日ほとんど忘れてしまっていることがよくあります。そこで、先週の日曜日、いここに相談してみました。大学生のいここから教わったことは、次の二つです。

(ア) は、覚えたい内容をできるだけ図や表にまとめるということです。わたしはこれまで何度も文章を読んだり、大事なところに線を引いたりしていました。しかし、それだけでは、なかなか覚えられなかったので、教わった方法をためしてみたいと思いました。

(イ) は、勉強を終える時間を決め、できるだけ早くねるとということです。たしかに、夜おそくまでがんばった次の日は、頭が働きません。脳にじゅうぶんな休養をあたえないと、記憶は定着しないのだそうです。

二 島田さんは、あとのメモを使って次の文章を書きました。

ぼくは、セミの羽化のようすを観察しました。羽化とは、幼虫が成虫へと変わることです。

夜、サクラの葉につかまっているセミの幼虫を見かけました。よく見ると、こげ茶色の背中がうつすらと縦にわれ、さけ目から白いものがのぞいていました。

しばらくすると、広くなったさけ目から、①これまで見てきたセミとはちがう形をしたセミがあらわれました。ぬけ出したばかりの頭、胸、あしは、みずみずしくてまっ白でした。②ぬけがらにおしりの先を残して、セミがのび上がったとき、くしゅくしゅにちぢまった羽が見えました。③姿をかくしていた羽が、急に背中から生えてきたように思えました。

その後、セミの羽はじゅうぶんにのび、見なれている形になりました。このときもまだ、セミの④()。顔を近づけると、羽には、葉脈のような緑色の筋が走っていました。夜がふけてきたので、この日の観察はこれで終わりました。

《メモ》

○こげ茶色の背中がうつすらと縦にわれる	・さけ目から白いもの
○さけ目が広がり、頭、胸、あしがぬけ出る	・みずみずしくてまっ白
○おしりの先以外がからの外に出る(のび上がる)	・くしゅくしゅにちぢまった羽
○羽がじゅうぶんにのびる	・全身は白のまま ・羽に葉脈のような緑色の筋

(1) — 線部①について、「このときのセミ」と「これまで見てきたセミ」の形を比べたとき、どこが大きくちがうでしょうか。漢字一字で書きましょう。

(2) 次は、— 線部②、③の文のちがいについて説明しています。()に入る言葉を書きましょう。

②の文は見たことを書いているのに対し、③の文は()を書いています。

(3) — 線部④()に入る言葉を、メモを参考にして十字で書きましょう。